

第40回福岡矯正管区教誨師熊本研修大会（JKA競輪補助事業）

平成25年10月29日（火）～ 30日（水）開催

記念講演

演 題 「見えるお金と見えないいのち」

講 師 菊池養生園名誉園長「伝承館」館長

竹熊 宜孝 氏



分科会

第1部会 個人教誨の部

発表者 熊本刑務所所属教誨師 芥川 龍淨

発表題 「個人教誨実施日と内容(24年度分)」

発表者 大分刑務所所属教誨師 河野 全厚

発表題 「『法華経』と『日蓮聖人御遺文』に見る罪の自覚について」

司 会 熊本刑務所所属教誨師 赤星 善生

助言者 熊本刑務所教育統括 水上 武博 氏

第2部会 グループ教誨の部

発表者 熊本刑務所所属教誨師 甲斐 孝文

発表題 「『宗教教誨に望むもの』アンケート集計報告」

発表者 長崎刑務所所属教誨師 藤本 俊春

発表題 「私の教誨について」

司 会 熊本刑務所所属教誨師 金 聖孝

助言者 熊本刑務所企画首席 森 哲也 氏

第3部会 少年施設の部

発表者 人吉農芸学院所属教誨師

発表題 「私の宗教講話」

発表者 中津少年学院所属教誨師 小西 美智子

発表題 「生かされていること」

発表者 佐世保学園所属教誨師 水町 宗典

発表題 「いのちを自覚する心を育む」

司 会 人吉農芸学院所属教誨師 松崎 義治

助言者 人吉農芸学院企画統括 船川 英樹 氏



成 果

(1) 記念講演

竹熊宜孝氏の講演については、

ア 人間という存在が、そもそも罪深いものであることを自覚する。

イ アを踏まえ、被収容者と教誨師がともに命の尊厳にめざめていきっていく。

という、大会の趣旨のもと講演が行われた。その講演は、生命の根幹について考えさせられる内容であり、教誨師、職員ともども、生命について改

めて考えさせられるものであった。

(2) 分科会

ア 個人教誨の部

個人教誨は被収容者の精神的煩悶に対して、教誨師が宗教家としての立場で



寄り添いながら、命の尊厳を自覚させていくという、教誨活動の根本とも言えるものである。今回の分科会発表により、上記事項を確認するとともに、今後個人教誨を充実させるために、教誨師側、施設職員側で何ができるかについて、双方の立場から白熱した議論が行われた。

また、罪の自覚という点からは、教誨師が被収容者の心情を受け止めつつ、一方で犯罪被害者の心情を伝え、考えさせることを通じ、自己の罪に向き合わせて、社会の要請に応じていくかが課題となり、議論が展開された。

イ グループ教誨の部

各施設で集合教誨が広く実施されているため、参加者が最も多い分科会であった。発表施設は、各自施設の活動を発表していた。その中で、今後一層、グループ教誨の教誨参加者を増やしていく必要性や、個人教誨と比較して限られた時間と場所を生かして、いかに「生命の尊厳」や「罪の自覚」ということを伝えていくかについて、教誨師と施設間で意見や議論が交わされた。

また、教誨師が実施効果を的確に把握するために、グループ教誨における講話の一方通行ではなく、受講者との対話が今後一層必要ではないかという意見が出るなど、教誨活動の充実と施設の円滑な管理運営をどう両立させていくかについて、議論が行われた。

ウ 少年施設の部

主として少年施設関係者の職員や教誨師の参加であった。教誨師は少年に対し、どのようにして宗教心を涵養させていき、罪の自覚や生きることの尊さを教えていくか、また、職員は、少年が可塑性を有するものであり、宗教的な中立性を守りながら、いかに教誨師の活動を支援していくかについて、議論がなされた。

少年施設は、現在、犯罪被害者の視点から、少年の心に共感し寄り添いながら、どう自分の犯した罪と向き合わせ出院後の人生を歩ませていくかという課題を抱えており、教誨師、職員との間で活発な議論がなされていた。